



諏訪ユネスコ協会

# 諏訪ユネスコ通信

第 11 号

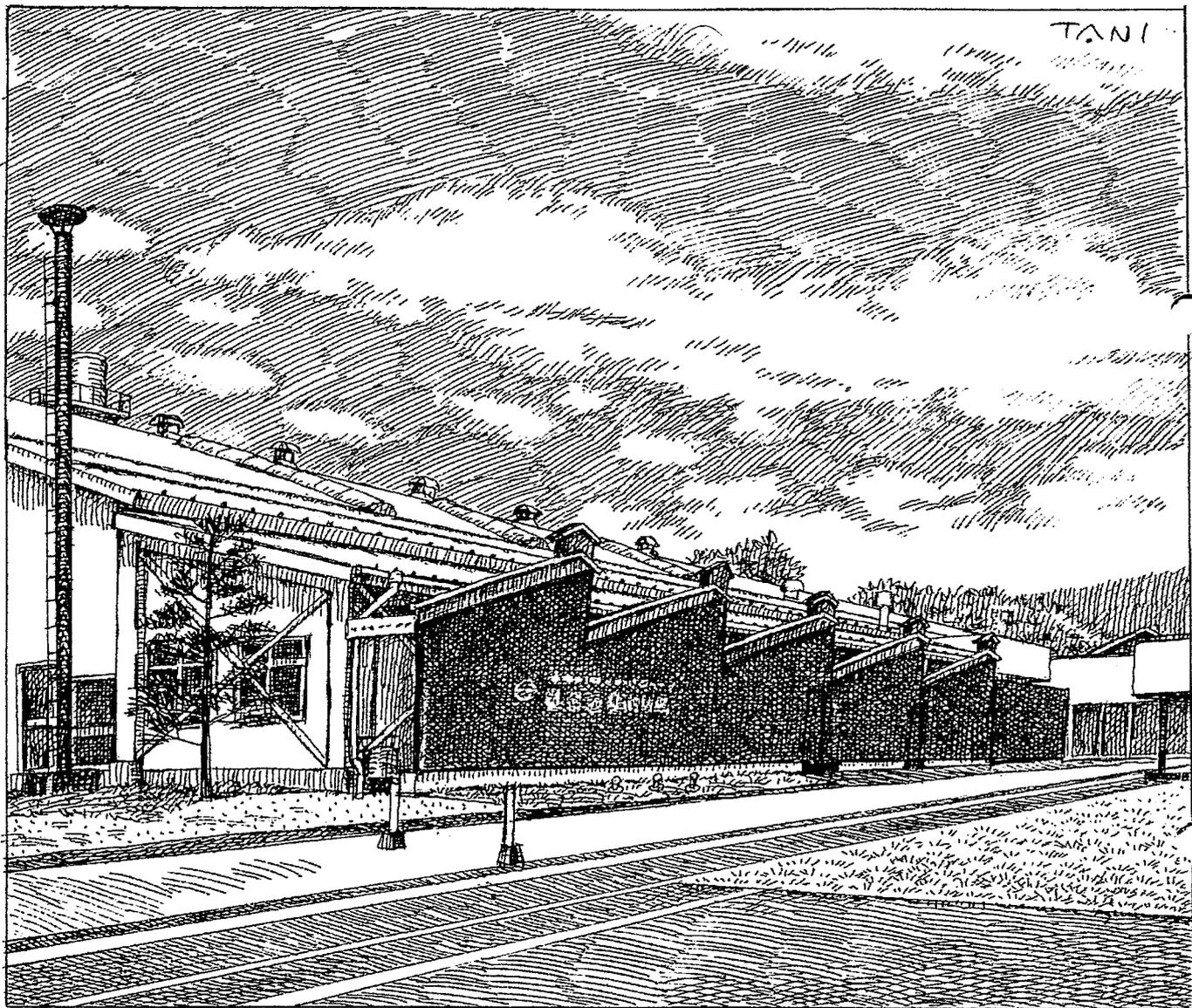
発行日

平成 26 年 10 月 31 日

発行者

諏訪ユネスコ協会

編集委員会



岡谷蚕糸博物館

挿絵：谷澤信憲

岡谷は、明治初期より大正、昭和初期にかけて、生糸の一大産地として発展し、その生糸は海外へ輸出され、外国から“silk Okaya”と呼ばれ、我が国の近代化に大きく貢献してきました。

その歴史ともの作りの精神を伝えるために、これまでの常設展示のほか、動態展示として上州式繰糸機・諏訪式繰糸機・自動繰糸機等を使って操業している宮坂製糸所を併設しました。

未来のものづくりを考えるには、まず先人の知恵と涙ぐましい努力を肌で感じていただきたい。これが新しい博物館に対する思いです。

是非、由緒ある新鮮さを味わって下さい。

## 2014 中部東ブロック ユネスコ研究大会 in 木曾 報告

研究大会は10月25日(土)～26日(日)大会テーマに「未来の子供たちのために持続可能な社会の構築を目指す」を掲げ、木曾ユネスコ協会主管により25日は紅葉した山々に囲まれた、木曾文化公園文化ホールにて地区内会員100余名の参加を得て行われ、当協会からは12名が参加した。

今回の大会は人口減少・高齢化社会等、我々を取り巻く環境が変化し、地域の活力の低下が懸念される現代において、持続可能な社会構築を目指した取り組みの重要性が増しているなかで、未来の社会の担い手である学生たちが、現代社会の課題を身近に捉えたところから取り組むESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な開発のための教育」とユネスコスクール・ユネスコエコパークについて講演、事例発表が行われた。



講演「ESDと地域の活性化」講師 渡辺 隆一 (信州大学教育学部 特任教授)  
＝活動事例発表＝

発表 1. 東北ボランティアツアーやESDの取り組み

信州大学ユネスコ部 代表 長坂 朋美・尾形 望

発表 2. オーストリアの先進林業に学ぶ地域の活性化

長野県林業大学 古田 啓吾・高山 龍之助

発表 3. ユネスコスクールとしての取り組み

信州大学教育学部附属松本中学校 教諭 久保 貴史

発表 4. ESD パスポートの取り組み

静岡市立玉川中学校 教諭 望月 厚志

発表 5. 国際ユース環境会議

信州大学教育学部 特任教授 渡辺 隆一

引き続き、発表者によるパネルディスカッションが行われ「ユネスコ活動と地域活性化」について参加者を含めた質疑が行われた。

26日は会場を木曾福島会館に移して行われた。

基調講演「豊かな環境が地域を育てる」— ユネスコエコパークを考える —

講師：横浜国立大学長 鈴木 邦雄

「自然と人間の調和と共生」を目的としたユネスコエコパークについて理解を深め、ユネスコエコパークに取り組んで、身近な自然を復興していけば、地域の振興・発展を促し活性化につながることを認識できるようになると話した。

## 講演「只見町ユネスコエコパーク」

只見町ブナセンター館長 鈴木 和次郎

過疎、高齢化、それに伴う産業の衰退が急速に進む地域社会を維持・発展するためにブナ林に代表される只見の自然環境を保護・保全しつつ、それらを維持可能な形での利活用を通じ地域社会経済の発展を目指すユネスコエコパークへの登録・認証への活動経過を話した。

ESDは Education for Sustainable Development の頭文字をとった略字

日本では「持続可能な開発のための教育」と略し今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近な所から取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動で「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」と言えます。

### ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を実践する学校です。

ユネスコスクールの活動目的は

1. ユネスコスクール・ネットワークの活用による世界中の学校と生徒間・教師間の交流を通じ、情報や体験を分かち合うこと。
2. 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すこと。

### ユネスコエコパークとは

生物圏保存地区(ユネスコエコパーク、Biosphere Reserves:BR)は1976年にユネスコが開始しました。ユネスコの自然科学セクターで実施されているユネスコ人間と生物圏(MAB:Man and the Biosphere)計画における一事業として実施されています。

世界自然遺産が、顕著な普遍的価値を有する自然地域を保護・保全するのが目的であるのに対し、ユネスコエコパークは、生態系の保全と持続可能な利用活用の調和を目的としており、保護、保全だけでなく自然と人間社会の共生に重点が置かれています。

ユネスコエコパーク、ESD、ユネスコスクールの取り組みを関係させることによる相乗効果が期待されます。



木曾ユネスコ協会長・井原正登



祝辞 長野県知事・阿部守一



# 岡谷蚕糸博物館見学

地域遺産部会では10月20日(月)今年8月にリニューアル・オープンした「岡谷蚕糸博物館」を見学した。当日の会員参加者は14名。

群馬県の「富岡製糸場」がユネスコの世界遺産に登録されたことから、当博物館へも関心が高まり、10月末には来館者が2万人に達する盛況ぶりだという。

昨年の地域歴史遺産講演会で話された当博物館の館長で農学博士の高林千幸先生の説明を聞きながら、館内を見学した。



一反(13メートル)の絹織物を作るには、桑の葉 70 kg、蚕 2,300 頭、繭 4.7 kg、生糸 900 g を要するというが、すべての作業は糸繰り機から始まる。

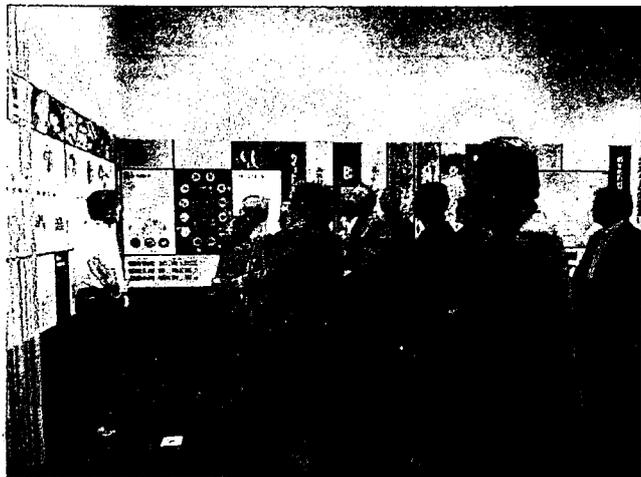
明治時代、イタリアやフランスから輸入された様式の糸繰り機から、諏訪人は創意工夫を重ねて諏訪式糸繰り機を開発した。その機械によって生産された生糸の多くが輸出され「シルク岡谷」の名を全国に高めることになった。

そうした初期の糸繰り機から、様々な改良を重ねて、すべてが自動で操作される糸繰り機、さらには自動車メーカーが作った自動織機など貴重な機械が一堂に展示されており、製糸業の変遷をたどることが出来た。また展示されていた当時の女工たちの写真を興味深く見た。

併設する宮坂製糸所では、諏訪式糸繰り機を前にして働く従業員の熟練された手さばきに感嘆し、最新自動織機では次々に生糸が生産されていた。

館内には「中国古代復元絹織物展」が開催されていた。清の皇帝が着用したとされる豪華絢爛たる衣装は復元ながら、その美しさに魅せられた。

諏訪では貴重な位置にあった製糸業の歩みを知り、シルクについて認識を新たにした有意義な研修であった。



## 諏訪湖アダプトプログラム・諏訪湖畔の清掃実施

地域実践部会は、平成 26 年度事業「諏訪湖アダプトプログラム・諏訪湖畔の清掃」を年 3 回実施した。

第 1 回、7 月 3 日(木)午前 9 時より会員 13 名が参加して実施した。

ごみの収集量：可燃物 4kg。不燃物（ペットボトル・缶）若干。



第 2 回、8 月 28 日(木)午前 9 時より会員 19 名が参加して実施した。

ごみの収集量：可燃物 20kg。不燃物（ペットボトル・缶）若干。

第 3 回、10 月 18 日(土)午前 9 時より会員 13 名が参加して実施した。

ごみの収集量：可燃物 6kg。不燃物（ペットボトル・缶）若干。

来年度は、2 回目を新作花火大会の後に計画する予定。



## 理事会報告

第 38 回理事会 平成 26 年 7 月 4 日(金) 午後 6 時 30 分 於；事務局

### 1. 当面の事業について

#### 1) 地域遺産部会

・岡谷蚕糸博物館の見学会について

次回理事会までに担当者が下調べをし、計画を立て報告をする。

### 2. 会費の納入事務について

・7 月末日までとする。

・基本は振り込みとし(集金も可)、手数料は個人負担。

### 3. 「ユネスコ通信」の発行について

・理事が担当地区に持ち帰り配布をする旨、広報部より依頼。

### 4. その他

・「諏訪ユネスコ協会の会員募集」のパンフレット作成について

・「諏訪市女声ネット」より「服部英二先生講演会」の共催依頼があった旨の報告…共催はしないが行ける方は参加をする。

第 39 回 理事会 平成 26 年 8 月 5 日(火) 午後 6 時 30 分 於 ; 事務局

1. 「岡谷蚕糸博物館の見学会」について
  - 1) 地域遺産部会長・担当者より報告
    - ・ 休館日の確認・・・水曜日・祝日の翌日。
    - ・ 開館時間・・・午前 9 時～午後 5 時。
    - ・ 入場料・・・団体 400 円 (個人は 500 円)。
    - ・ 会員に募集をかける・・・現地集合。
2. 会費の納入状況について
  - ・ 会計より納入状況の報告。
3. 新入会員について
  - ・ 会長より、富士見町に会員がいないため依頼中との報告。
4. 「中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 木曾」への参加について
  - ・ 日時・・・10 月 25 日～26 日。
  - ・ 会場・・・大会会場・宿泊場所等詳細を、木曾より連絡待ち。
5. その他
  - ・ 寺子屋部会の開催を 9 月か 10 月に予定

第 40 回 理事会 平成 26 年 8 月 22 日(金) 午後 6 時 30 分 於 ; 事務局

1. 「岡谷蚕糸博物館の見学会」について
  - 1) 地域遺産部会長より提案
    - ・ 日程は 10 月を予定。
    - ・ 参加費は団体割引で 1 人 400 円・・・会で負担。
    - ・ 会員参加の案内状を 9 月中に配布。
2. 「中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 木曾」への参加について
  - ・ 9 月末までに参加者名簿の送付及び参加費、懇親会費を納入する。
  - ・ 次回の理事会に懇親会費 5,000 円+宿泊費 5,000 円=10,000 円集金。
  - ・ 参加費の 3,000 円は会から負担。
3. 第 2 回アダプトプログラムについて
  - ・ 日時・・・8 月 28 日(木) 午前 9 時～。
4. 新入会員について
  - ・ 有賀 直人 富士見町落合 2534-8
  - ・ 小池 巻彦 富士見町立沢 3763-1
  - 上記 2 名承認。
3. その他
  - ・ 会費未納者の再度確認。

第 41 回 理事会 平成 26 年 9 月 10 日(水) 午後 6 時 30 分 於 ; 事務局

1. 岡谷蚕糸博物館の見学会について
  - 1) 清水地域遺産部会長より説明
    - ・ 日 時・・・平成 26 年 10 月 20 日(月) 午前 10 時集合
    - ・ 集合場所・・・岡谷蚕糸博物館駐車場 (商工会議所隣り)
    - ・ 参加費・・・団体参加 1 人 400 円 (会より負担)

会員への参加案内状は9月17日までに作成し担当者が配布する。

2. 「中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 木曾」への参加について
  - ・懇親会費 5,000 円+宿泊費 5,000 円=10,000 円集金。
  - ・交通手段…自家用車2台（詳細は次回の理事会で決定する）。
3. 理事の選任について
  - ・富士見町の理事が空席の為、小池巻彦会員を理事に選任し承認。
4. 講演会の開催について
  - ・会長より全理事に講師の方を見つけて欲しいとの依頼。
5. その他

第42回 理事会 平成26年10月10日(金) 午後6時30分 於；事務局

1. 岡谷蚕糸博物館の見学会について
  - ・平成26年10月20日(月) 午前10時 現地集合。
  - ・入場料(団体400円)は協会が負担。
2. 「中部東ブロック・ユネスコ活動研究会 in 木曾」への参加について
  - 1) 決定事項
    - ・出席者…12名(内1名日帰り)
    - ・日程…10月25日(土)～10月26日(日)
    - ・会場…10月25日(土) —— 木曾文化公園文化ホール  
10月26日(日) —— 木曾福島会館
    - ・宿泊場所…木曾三河家
    - ・交通手段…自家用車2台(浜・矢崎)事務局10時集合。
    - ・費用…参加費3,000円(会負担) 宿泊費5,000円(個人負担)  
懇親会費5,000円(個人負担) 交通費後日(個人負担)
  - 3. 第3回諏訪湖アダプトプログラムの実施(本年度最終回)
    - ・期日…10月18日(土) 午前9時～
  - 4. 寺子屋運動「書き損じハガキ キャンペーン2015」の実施について
    - ・今後の日程について…11月12日(水)午後6時30分より部会。
    - ・茅野市の永明小学校、東部中学校より説明依頼あり勉強会を行う。
  - 5. 講演会について
    - 1) 「仮面の女神」国宝指定記念イベント  
シンポジウム(茅野市主催)開催への出席について
      - ・期日…平成26年12月21日(日)午後1時30分
      - ・場所…茅野市民会館
      - ・基調講演…前文化庁長官・近藤 誠一氏詳細は後日決定  
会員全体へ呼びかけを行うことを決める。
  - 6. その他

寺子屋部会は今年も「書き損じハガキ」の募集活動を行います。

# 土偶(仮面の女神)国宝指定記念事業

茅野市は本年の8月21日に当市所蔵の土偶(仮面の女神)が国宝に指定されたことを受け、これを祝した記念事業を下記のとおり開催することとなりました。諏訪ユネスコ協会、地域遺産部会は事業活動の一環として、その趣旨に賛同し後援することにしました。

会員の皆様にはご協力をお願いします。

1. 日 時 平成26年12月21日(日)午前11時～午後4時30分
2. 開催場所 茅野市民会館(茅野市塚原一丁目1番1号)
3. 概 要 縄文時代の文化遺産や縄文文化の精神性を現代社会の新しい価値に置き換えて「ひと」をテーマに「まちづくり」にどのように活かしていけるかを考えます。

## I 国宝指定記念 演劇公演

- (1) 日 時 平成26年12月21日(日)午前11時から
- (2) 場 所 茅野市市民館マルチホール
- (3) 劇 団 NPO法人 劇空間夢幻工房
- (4) 演 目(仮)「5000年目の夕日～縄文のヴィーナスの声なき伝言～!?!」

## II 国宝指定記念 シンポジウム

1. シンポジウム 八ヶ岳の自然が培う豊饒な縄文  
～人はなぜ表現するのか～

- (1) 日 時 平成26年12月21日(日)午後1時～午後4時30分
- (2) 場 所 茅野市民会館マルチホール
- (3) 内 容

午後1時 基調講演

「講 師」近藤 誠一 (前文化庁長官)

「演 題」未定

午後3時 パネルディスカッション

「コーディネーター」

近藤 誠一先生

「パネリスト」

関口 芳史 (十日町市長)

原田 マハ先生(小説家)

小林 達雄先生(国学院大学名誉教授)

柳平 千代一(茅野市長)